

第7回 大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会（摘録）

【日 時】 平成30年2月16日（金） 15：30～17：20
 【場 所】 職員会館3階 2・3会議室
 【出席者】 検討委員会委員 16人 欠席1人
 教育委員会事務局 8人

【次 第】 司会：学校再編推進室主査

1 開会

2 議題

（1）第6回大牟田市立学校適正規模・適正配置検討委員会摘録について

発言者	発言内容
委員長	第6回の検討委員会の摘録について、前回の委員会では現計画の中で、特に課題とされていた橘中学の活用を中心に協議を行いました。 施設整備のパターンとして、1つ目は現敷地を活用、2つ目は一部敷地を活用して整備、3つ目は新しい敷地を確保して整備する3案について意見交換しました。 皆さんからは、3案いずれも課題が相当厳しく整備は不可能ではないが、大きな費用を投じても見合う教育環境の改善が見込めるのか、あるいは効果が期待できるのかといった視点から厳しい意見が出ました。 そこで、これまでも意見として出されていた近隣の既存校を活用する案も議論・検討する必要があるのではということが、前回の委員会のまとめとなりました。 皆さん、内容を確認されたと思いますが、今までどおり個人が特定されないよう配慮する形でまとめられています。 内容等含めてこの内容でよろしいかお伺いをします。
全委員	承認

（2）中学校施設活用の検討（橘中学校の近隣校について）

委員長	次に、中学校施設活用の検討についてです。前回の意見交換では、現橘中学の活用については相当に厳しいという中で、近隣の既存校の活用を検討する必要があるのではとの意見が複数ありました。 このため、近隣校の活用について検討を行います。その前に本日の会議の取扱いについて確認をします。 本日の委員会も原則公開で進めたいと思いますが、議事の進行途中で皆さんからの自由闊達な意見等が出しにくい状況があれば、その時点で会議の公開・非公開扱いをお諮りすることといたします。 このような取扱いでよろしいでしょうか。
全委員	了承
委員長	今回、検討シートが配布されていますので、その説明も含めて事務局、説明をお願いします

事務局	当日配布した検討シートについて説明 (資料2) 中学校施設活用検討資料(現橘中学校の近隣校について) 説明
委員長	事務局から、検討シート、検討資料の説明がありました。ただ今の説明を受けて、ご意見、質問等があるかと思しますので、休憩の後、皆さんからお伺いしたいと思います。 なお、冒頭、この会議の取扱について、確認をしましたが、後半の会議に入る前に、会議の公開・非公開の扱いについてお諮りしたいと思います。 なお、非公開とした場合は、皆さんの発言の趣旨等を最後に、委員長である私がまとめて紹介する形にして、そのまとめは公開ということにいたします。 ここで、5分間休憩を取ります。
	5分間の休憩
委員長	時間になりましたので再開します。 これから後半の意見交換、質問等に入りますが、その前に会議の公開、非公開についてお諮りをいたします。本日の会議について、公開とすることでしょうか。
委員全員	了承
委員長	ただ今、了承されましたので公開といたします。 それでは、皆さんから自由闊達な意見、質問をお伺いしたいと思います。先ほど委員の皆さんからこれまで出された近隣校活用の意見を取りまとめた案として、案1、田隈中学校の活用、案2、田隈中学校と甘木中学校の暫定活用の2案の説明がありました。この2案を柱に意見交換、議論を行っていききたいと思います。
委員	私は案2が良いと思います。甘木中学を残す案は北部の生徒の通学距離、生徒数を考えると、とても良いのではないかと考えました。甘木中を暫定的に活用とありましたが、いつ頃までか見通しを教えてください。
事務局	当面、甘木中を再編せずに活用する案となります。今の計画では、見直しをかけているのは、平成41年までの生徒数の推計値を見ています。案2の下に推計値を出しています。この案では甘木中は再編しないで、大きな学校にはならないが、今と同じような数値が41年度位まで推計が見込まれます。ただし、41年度以降は推計が出ていません。今後の推計を見ながら、方向性を検討する必要があります。
委員	私も案2が子どもたちにとって、良いと思います。子どもたちの通学の安全が大切なことだと思います。安全に学校に行って、帰ってくることを考えると、あまりにも広い範囲で再編すると人数的には良いかもしれないが、子どもたちのことを考えると、少し規模を小さくしてでも、今ある中学校の校区をあえて分けるのではなく、今ある中学校がある程度固まっている案2がとてもすばらしいと思った。 田隈中を施設見学した時、古かった気がしたが、工事は子どもたちが居る中で進めるのか、仮校舎を使うのか質問です。
事務局	工事の方法は、生徒が居ながら工事を進める方法になります。数億円の

	規模になりますので、単年度では工事は出来ないので2ヵ年に分けて、夏休みをメイン工事にして、支障が無い所を1年間で行い2年続けて行います。
委員	現行案と検討案について、これまでの議論の中で学校再編の基準としている学校規模や通学距離等を基に考えるのか、あるいは見直すのか、その点を確認して議論していく必要があると思います。
事務局	3校に再編する時、適正規模からすると市の適正規模が12～18学級となっています。少し学校規模が20～21学級に大きくなるパターンもあります。逆に案2は、平成40年度以降12学級となり、少し小規模の可能性もあります。これが適正規模・適正配置だけで学校の教育環境を決めて良いのか、あるいは地理的要因、学校敷地などの学校環境を入れて総合的に判断して良いのか、ご意見いただけたら答申に反映できると思っています。 適正規模・適正配置は、中学校では教科担任が置けない、部活が成り立たないなどの規模があらうかと思っています。反面、どこまでになったら影響があるのか、少し柔軟性があったり、地理的な環境だったりを配慮する部分もあるかも。皆様方のご意見をまとめの中で、参考にさせていただきたいと考えています。
事務局	補足します。国では再編について、12～18学級、通学距離6キロの方向でしたが、それに付け加えて、地域の実情に応じては、再編は色々なことを総合的に考えなければならないとあります。そうすると、12～18学級が必ずしも成り立つとは限らない。そうなった場合、国が示している数字だが、9学級以上あれば何とかなるのではないかとしています。当初、教職員の定数の話をさせていただいたが、9学級あれば教職員定数も一応確保できるのではないかと考えています。
委員長	適正規模・適正配置について、何人かの委員の皆さんから発言がありました。ご承知のとおり、適正規模・適正配置が再編上ある程度の基準として設けられています。 ただ、最初に再編する場合はそうであるが、今回の場合、橘中の施設活用と案1、案2、特に規模が小さくなってどうなかの心配もありますが、それらを総合的にみた時に子どもを中心に据えて再編を進めていくということが今までもこれからも一番大切な事ではないかと思っています。 そうした場合、少し弾力的な運用も考えても良いのではないかと思います。それから教育条件を改善していく事は再編に求められています。例えば、免許を持たない先生方が教科を教えるような教育条件が悪くならないような、望ましい学級数として9学級という線引きがあると思います。今回はそういったところまで総合的に判断する必要があると思います。
委員	甘木中を一時的に残して再編するという皆さん方の意見が出ました。ただ、前回の委員会で3案が出て、橘中を改修して再編する意見もありましたが、土地を購入する費用もないと思います。暫定的に手鎌小、倉永小を残して橘中の再編を行う案2であれば、極端にいうと田隈中ありきで書いてあるが、福岡県でいうと大牟田市は県の端です。端に北側の人が田隈中に行かなくてはならない。これが安全かなと思いました。 現計画は、橘中の位置が真ん中にあるからそれを残そうという意見だっ

	たと思います。ところが校地が狭く、中に道路が走っているなど課題があって忸怩たるものがあった。資料の1ページをみると橋中が真ん中にあり、田隈中は校区境でここに北側から来る事になる。橋中の右横に調整池があるが、調整池を使用目的変更で橋中の運動場と交換して、そこに調整池を造り、今の調整池に橋中を持って来ると用地代が安くなる。造成費も目的変更で補助金がかかるのではないかと考えた。 そうすると、橋中のバイパスの幹線道路があるので、宮崎を通って倉永にも行ける。そうすると第6回委員会の資料11ページの整備費用のパターン3の新設校での整備で土地の環境整備に土地代だと思うが9.5億円、これを校地変換することで下がってくれば、パターン2の24～25億円位に収まってくるのではないかと考えた。 その辺の使用目的がなされるのかどうか。いずれにしても田隈中にある間にどこかに代替校舎を造らなければならない。橋中にするのか、新しい校舎を一括で建てて33～34年に移る方法をとるのかを考えると、新しいところに一括で造れば良いのではないかと考えた。 羽山台も田隈中ではなく従来どおり歴木中でいいのではないかと思います。橋中再編でそこが出来た時に、甘木中の倉永小と手鎌小が分かれる。白光中再編と橋中再編で分かれる時に編入する形をとればいいのではないかと考えた。 この間、甘木中は従来どおり手鎌小、倉永小とし、田隈が出来た時に再編して倉永が橋中校区に編入され、白光中校区に手鎌小が編入する。そうすると案1で示されている再編目標の編成地図に落ち着くのではないかと考えた。 前回、建て替えなど費用対効果もあって意見を言っていたが、今回の3案で猶予を持てれば、3年間で目標に合わせて再編が出来るのではないだろうかと思った。 結局、甘木中がその間、存在することを示された上での案2を出されているのではないかと考えた。その辺を費用対効果もあるので考えなければならないのではないかと考えた。
委員長	事務局どうですか。
事務局	白銀調整池公園のことだと思います。手鎌野間川の支流の浸水対策のために、私が知っている限りで20年経ちますが、2回ほど遊水地として池が満水になったと聞いています。都市計画上、調整池が調整池でなくなるとどうなるか分かりませんが、目的があると思います。前回は、〇〇委員から新設校の場所を想定しているのかの意見がでて、仮に想定するなら東側の田などでないかとお答えし30数億円になってくると聞いています。 調整池を機能的に廃止するのは難しいのではないかと聞いたと思います。
委員	橋中の運動場を調整池にしたかどうかということです。調整池がなくなれば下流が心配ということですが、併せて調整池を運動場側に造れば、今の調整池に造成してやれるのではないかと聞いたと思います。
事務局	今の橋中の敷地を調整池に組み替えるという事ですか。
委員	そちらの方が新たに建設するので、歪に整備するよりきちんと整備でき、一番新しくなるのであれば、今の状態で平成41年まででなく、今後30～40年の校舎が出来ると聞いたと思います。
事務局	調整池は広い範囲をみて水関係を計算して、造ってありますので、それを

	単純に橘中学校の運動場に出来るかどうか難しいと思います。
委員	考えてください。
事務局	ハードルが高いと思います。
委員	それは土地が無かったからで、橘中にできれば、その裏にも用水が来ている。
事務局	答えになるか分からないが、〇〇委員のご提案は出来るだけ子どもたちの教育環境を確保しながら、土地の分と土地を取得するハードルが高ければ、費用の問題をなんとか工夫してクリアできないかのご提案だと思います。 あの当たりの雨水対策の調整池は条件からハードルが高いと認識しています。すぐ近くに生活道路があって、住宅地が密集している中を調整池が出来るのか、大きなハードルと思っています。ただ、ご意見は関係部局に確認しながら、次回に回答できたらと考えています。
委員長	事務局、関係部局との調整をお願いします。
委員	新聞等をみていると、市は市民体育館や、RDF、水道事業関係、市庁舎建替え等、大きな事業が控えています。また、時期的にも学校再編と同じ頃だと思いますが、現実的な問題も考える必要があると思います。予算的にはどうでしょうか。
事務局	市も公共施設等が古くなったり、維持管理など課題があります。大きな部分では庁舎の耐震化、新築を含めた改修について議会に出され、市民の皆さんの意見を聞く事になり、数十億かかる話があります。 総合体育館の建て替え、中心市街地の再開発にかかる部分もあります。全市的にみると、教育にかける費用も出す事は当然ですが、現実問題、全体の市の兼合いから整備できるところから、今後進めていくこともあると考えています。再編整備は必要であると捉えて進めますが、市全体の財政的な問題は出てきます。
委員長	財源がないと事業は進まないのは現実です。現実を考えた時、費用対効果が大事になってくる。いかに効率良く、効果を出して、事業費を削減しながらやっていく事が大きな課題ではなかろうかと思います。 私は３３年に３校同時再編は可能なのか心配に思っています。その辺はどうですか。
委員	関連して質問です。資料４ページに３３年に３校同時再編と書いてあり、案１、案２とあるので、同じ考えかと思います。これまで、大牟田市は１校ずつ再編を進めてあり、他の郡市と比べて丁寧です。丁寧にやる事で保護者、地域の方の理解をしていただき、完全までは行かないまでも、これで行こうという気持ちにさせていただくことが大牟田市の良いとこだと思います。 ３校同時に再編すると、再編協議会が複数立ち上がり足並みが揃わない事が出てくると思うし、教育委員会、学校再編推進室の動きも大変になってくると思う。私も経験しましたが、閉校式は２校同時に行って出来なかったりする。３校、４校やる事になると相当大変ではないかと思う。予算の面だけでなく、３校同時は大丈夫なのかお聞きしたい。

事務局	現行案と今回示した案１については、３つのグループの小学校が絡みあっていますので、３校同時のパターンになります。６校を閉校して３校にする部分については今までに無い考え方になります。 今までの再編校の中で、協議会を持ちながら準備を重ねてきた部分では、どこかが止まれば全部が止まるパターンです。事務局としては、どこまで事務局対応できるか、課題が大きいと考えています。学校側も事前交流も課題があると想定しています。 もう一点、３校同時の再編整備費用について、開校が決定したら、大体２年で整備を行います。長くしても負担がでるデメリットがあります。３校同時に再編すると、整備費用について、他の大型プロジェクト同じ時期でピークは大きくなります。橘中を使うか、使わないかがありますが、３校同時は整備がピークになる事は特徴としてあります。
委員	橘中学校は確かに適正規模・適正配置の基準からすると橘中になるが、前回からの議論に出たように費用対効果からいうと非現実的である。さらに新しく近隣に建てると予算面から非現実的であることだと思います。 近隣校を活用する事は現実的な対応で当然の事だと思います。私も案２が良いのではないかと思います。甘木中を活用する事で、田隈中まで通学する生徒が減るのがメリットではないかと思います。甘木中を残すにしても、宮原中と変わらない学校規模なので問題はないと思います。 生徒のことを考えると案２が良いと思いますが、案２にしても田隈中に行く距離がそれでも遠くなる生徒が出てくると思うので、それに対する支援、対策はどのように考えてありますか。
委員	関連して質問です。 案２がバランスが良いと感じましたが、具体的な数字が分からないと、目で見ただけなので、どの位の距離、特に田隈中にした場合、倉永の南の子たちが遠いので通学の距離がどのくらいになるのか。また、私は玉川小に勤務しているが、昨年度卒業した子が宮原中の第１期生になったが、校区がすごく遠い。遠い中で、定期、タクシーチケットの話を聞いて、詳しく分からないので、遠い子が出た場合、宮原中と同じ通学の支援、サポートがあるのか教えてください。
事務局	宮原中の玉川の教楽来地区の生徒に公共交通路線バスへの補助を運用しています。今回、仮に案１の田隈中だけの活用案では、倉永校区の甘木山の北側、どちらかというと手鎌の黒崎に近い場所まで倉永校区となります。 数的には６キロちょっとですが、実際行ってみると６キロ以上あります。田隈中までの通学になると何がしかの支援が必要だと思います。西鉄でも渡瀬駅まで出てくるのも距離がある。また、路線バスも廃止になっており、田隈中へ最寄り駅で降りても距離があるなど、支援を考えなければならない校区だと思っています。 案２については、今までの中学校となる。 一方、上内校区は再編の補助ではなく、低学年を対象に四ヶ分校があった時の上内小学校までの補助を運用している制度があります。路線バスは田隈中方面へ５５番が運行しています。夜遅くも南関行きのバスが運行されています。 使いやすさ、使いにくさはあると思いますが、公共交通手段としてバスも検討としてあると考えています。

委員	もし学校位置を変えらるとなると、保護者や地域の皆さんに丁寧な説明が必要になってくると思います。学校を整備する期間はもちろんです、整備する期間もより長く必要になるのではないかと思います。 可能なら時期をずらす事も考えたかどうかと思いますがいかがでしょうか。
委員長	見直しをすると周知期間が必要となるため、そのため計画期間を少しずらしたという事です、事務局どうでしょうか。
事務局	仮に学校位置を見直した場合、現計画の中間見直しとしても大きな部分になります。関係地域も広がりますし、全市的あるいは地域で当然説明会を行い、一定のご理解を踏まえないと先に進めないと思います。 先程、説明したように、校舎の整備はそこまでかからないにしても、検討委員会で検討されて市でどういう形で本計画にするか、その前後の周知期間を考えると、期間的にはもう少しかかると考えています。
委員	案1、案2と話が出て、案2ではそのまま甘木中が残るような捉え方をしていると思ってるが、そうではなく最終的には案2で暫定的に組んでいて最終的には案1に戻る考え方で良いのか。 既存の橘中の方に戻ってきて橘中校区を一つにする形にした場合に、案2の地図の紫の手鎌と倉永を再編するのかどうか。手鎌小は白光中校区に再編され、倉永小は橘中校区に再編され5校案にする。案2は6校案ですよ。そこをはっきりしないと、暫定的に案2でやって、その間に整備をして5校案にする方向性をきちっとしておかないといけません。 それに〇〇委員が言われた段階的にやれるところはやる形で進めていくと良いのではないのでしょうか。費用的な問題も出ましたから羽山台小は最初から歴木中にし、最初の案1に組み込んで進めていく。暫定的に田隈中を仮校舎にするので、この校区の人は歴木中に行ってくださいと説明もつくと思う。 それで手鎌小、倉永小は暫定的で橘中が整備されたら、それぞれに分かれて行くようになる。その間辛抱してください。北から南まで来るのは大変だし、交通の便は何も代替がないから倉永小が一番大変である。 交通の便は東西は良いが、南北がない。それを考えると少しでも学校位置を北に持っていくべきではないかと考える。既存校を活用するなら、橘中を増改築して移すと、少しなりとも約1キロは近くなる。橘中から田隈中まで1キロと言われたから、北へ1キロ上がると1キロ近くなる。 そういうことも考慮していかないと案2が良いのはあくまでも暫定的で、最終的に5校案が目的だと思いますが、どうですか。
委員長	暫定的な意味ですが。暫定はあくまでも仮にということですので、案1であれば色々な支障があります。 例えば、通学の距離などあるでしょうし、甘木中の規模をみた時に一定的に保てるという事から、案2が出てきている訳です。それはあくまでも暫定という言葉が付いています。その先どうなるのかという意見だと思います。
委員	暫定的に橘中を生かして、その間に橘中なり他のところで増改築、新築する方向性で行かないと橘中に行っている人たちも中々理解できないので

	はないか。 あくまでも5校案で行くのであれば、案2は暫定で田隈中を活用させてもらう。橘中の生徒が田隈中に来ている間にそちらの整備をする説明をしないと保護者も受け入れられないのではないかな。
事務局	言葉の使い方が、少し不適切な部分もあるかと思いますが、暫定とはいえ甘木中は平成41年以降も一定の規模が見込まれます。小規模化が進まない部分では再編せずにどちらかといえば存続する形を考えています。 田隈中については、再編整備を進めていきますので、一定再編後、長い期間田隈中が再編後の学校と捉えています。
委員	それでは、6校案ですか。
事務局	暫定とは、当面6校での考え方案になります。
委員長	当面、6校でいくという事です。
委員	コミュニティ、まちづくりの観点からですが、再編に伴って、大牟田市内では駿馬が1つになるので20校区から19校区になる。地区公民館が7つあり、再編に伴って今までは、例えば中央地区公民館、手鎌地区公民館を使っていたところが、別のところに行かなければならないようになってくる。地区も再編で減ってくると思うが。上官、大正は中央地区公民館を利用していたが、駿馬南北も駿馬地区館があるので良いが、将来的には、今まで中央地区館を利用していたところが、遠方に行かないと地区館を利用できない事が出てくる。 コミュニティやまちづくりにどのように考えてあるのか。地区公民館の利用も近かったのに遠方に行くとか。子どもたちの利用も遠方に行くとか不便性が出てくる。そこをどのように考えてあるのか。遠方まで行かず近いところを利用できる形をとってもらいたいと思っている。
委員長	コミュニティの関係で意見が出ましたが、事務局どうですか。
事務局	市内で7地区公民館があります。都市のマスタープランなどでは、6地区に分けながら地区計画が練られています。たまたま、中学校の再編の規模が大体そのエリア的に近いところもあります。それはある程度整合を意識しながら、図れるものは図りながら、地区公民館はその地域の方でないと使えないわけではなく、エリア以外のサークルなども利用できています。 もう一つは、小・中学校の再編のタイミング、子どもと高齢者の人口の構成も地域差があったりすると思います。エリアと小・中学校区がきれいに重なれば、より良いと思っていますが、意識しながらもきれいに重なる部分と、重ならない部分もあると思っています。あるいは7地区公民館の中でも人口のバランスがかなり偏ってきていると思っています。そこは継続的に関係職員と情報共有しながら、調整が図れるものとはって行きたいと思っています。
委員	再編の案を見ても、学校再編に伴って地域もばらばらになってしまう。
委員	案1、案2とありますが、私たちも橘中を残したい気持ちもありました。 現実、大牟田市も100年を迎えて、学校の伝統も尊いと思います。でも、私たちが一番考えないといけないのは、児童・生徒の安心安全そして教育の充実・環境の確保、いろいろな事を踏まえて、昔はどうだったと一番大切なことだと思いますが、今から先の子供たちのことを考えて、橘中

	を見学してかなり無理があると思いました。 大牟田市の財政も豊かではない。それで、途中で見直すように答申をしていましたので、今が見直しの時期で橘中を田隈中に変えて、甘木中は何年続くか分からないが暫定的に使用し、生徒数をみても宮原中と変わらないことになるので、甘木中を残して、他の4校は暫定ではなく田隈、歴木、白光は受け入れる事もできるのではないかと思います。 その代わり、教育委員会、地域、保護者、大変なご苦勞もあると思います。
委員長	その他、ご意見ありませんか。 なければ、ここで意見交換を終えたいと思います。 沢山のご意見をいただきありがとうございます。今回のご意見等をまとめて、次回の議題について進めて行きたいと思います。まとめる時間を少々いただきたいと思います。

(3) 議事のまとめ

委員長	今回、近隣校の活用について委員の皆さんからこれまで出されていた意見を取りまとめた2つの案について意見交換しました。これをまとめると、通学距離の問題が出ました。少し遠くなっても子どもの教育条件という改善を第一に考えるということから、遠くなっても既存の学校施設を有効に使うことが必要ではないか。 前回も出ましたが、仮設校舎の負担も避けたい事。それから適正規模の話が出ました。教育環境に大きな支障がないなら、適正規模12～18学級の基準があるが、これについては少し柔軟性を持つ事も必要ではないかという意見がありました。 また、前回の委員会では現橘中の整備3パターンについて議論を行いましたが、今回は近隣校活用の2案について、検討を行いました。 全体的には、皆さんの意見では案2の田隈中に甘木中をしばらく活用する案を支持される委員の方が多かったように思います。 一方で、近隣の既存校を活用する案が現実的であるが、これまでの考え方を見直していくには、地域の関係者等への十分な周知、説明が必要ではないか。それに関連して現計画の再編時期等も見直しの周知に配慮して少し柔軟性を持つ事も必要があるのではないかと意見がありました。 このことを踏まえると、見直すのであれば再編の時期自体も少し配慮する事もあるのかもしれないと思います。 以上が、今回議論いただいたまとめになりますが前回の議論あるいは今回のまとめから、次回の委員会の議題に関して皆さんにお諮りしたいと思います。 検討委員会としては、中間見直しの大きな課題である現橘中学校の活用については、次のような考え方でまとめて行きたいと思います。 まず、1つ目は、現橘中の活用については、施設面の課題が特に大きいことから難しいこと。2つ目は、近隣校を活用する考えである事。3つ目は、近隣校を活用検討した結果、田隈中学校の活用に加え甘木中学校も暫定的に活用するという考えに至った。このような方向性で考えたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。
全委員	了承

委員長	ありがとうございます。 この考えを基に他に検討すべき課題等、今回いただいた多くの意見等も含め、事務局の方で少し整理をお願いし、引き続き議論を進めて行きたいと思います。 次回、事務局のほうで議論検討する資料を用意いただけますでしょうか。
事務局	準備させていただきます。
委員長	今日、いくつか検討すべき課題が出ましたので、少し整理していただきたいと思います。よろしくお願いします。 それから最後ですが、再編に関連する話として昨年末に松原中学校の小中一貫校を検討して欲しいと、要望が地域から市や教育委員会にあったようです。その状況について、事務局に説明をお願いします。
事務局	昨年、平成29年12月27日に大正校区まちづくり協議会、中友校区町内公民館連絡協議会、中友校区社会福祉協議会の代表の皆様方より松原中学校区の中小一貫校の設置を求める陳情がありました。市と市議会に対する陳情です。教育力向上や将来に向けたまちづくりのために是非検討をお願いしたいとの内容でした。 陳情の時に話した中には、今、再編の中間見直しも行われていますので、その中においても一定協議をしていきたいと回答をされていますので、協議の中に入れていただければと思っています。
委員長	ただ今、説明がありましたが、この検討委員会の中で、中小一貫校という学校制度をどのように、また、どこまで議論すべきなのかと思いますが、次回以降委員会の中で制度について、まず委員として認識をするとともにどう議論をするか検討をしたいと思います。 皆さんそれでよろしいでしょうか。
全委員	了承
委員長	この件に関して、中小一貫校について事務局に資料等があれば、用意をお願いしたいと思います。

(3) その他

委員長	本日最後ですが、その他事務局から何かありませんか。
事務局	次回の検討委員会を出来れば3月くらいに開催したいと思っています。調整してご案内させていただきたいと思います。
委員長	その他、委員の皆さんから何かございませんでしょうか。
委員	次回の検討委員会は年度中ということですが、年度をまたいだ場合も、検討委員のメンバーもそのままでしょうか。PTAから出ている関係で、役員が変わった場合どうなりますか。
事務局	基本的には、委嘱は皆様方には1年をお願いしています。ただ、委員さ

	んが心配されるように年度がまたがれば、役職が変わられる方もいらっしゃると思いますが、当局としては、これまで議論をしていただいて内容をよく周知された皆さま方で、最後まで議論を続けていただきたいと思いますと思っているところです。
委員長	他にありませんか。 無いようでしたら、これで終わりたいと思います。

3 閉会